

つばさ

～男女が支えあい、いきいきと暮らせるまちをめざして～



まちを元気にする男女（なかま）たち
津市立三重短期大学生の皆さん

津市男女共同参画フォーラム
わあむ津 開催



育児休業は、性別に関係なく
取得できます。
さて、男性の育児休業取得率は？
（2010年度 国の調査より）
① 1.38% ② 1.72% ③ 13%
※答えは、情報紙の中に。
シロモチくんを見つけてね！



Illustration by デジ☆プロ Designed by リオン

- 【内容】
- ◇津市男女共同参画フォーラム わあむ津
 - ◇父親を楽しもう！！
 - ◇男女共同参画講演会
 - ◇まちを元気にする男女（なかま）たち
～第9回：津市立三重短期大学生の皆さん～
 - ◇歴史を拓いた津の女性たち 第2回 近江絹糸女子工員
 - ◇あむあむネットワーク 第3回
 - ◇津市ヘルスマイトおすすめ簡単レシピ紹介

NO.12

2012.3

『つばさ』

「誰もが自由な心で生きられる社会を思い、男女共同参画社会の実現に向かって飛躍していきたい」という願いを込め、その力となる「翼＝つばさ」を象徴しています。

津市

◆ つばさ各号は、下記のホームページで閲覧できます。

<http://www.info.city.tsu.mie.jp/modules/danjokyodosankakushitsu/article.php?articleid=1>

わあむ津

今年のテーマは

いっしょに子育て 変えよう津のまち

～奏でよう育ちと育てのハーモニー～

今年の津市男女共同参画フォーラム「わあむ津」は、2012年2月11日(土)開催されました。会場は津リージョンプラザに戻り、活動団体の展示やワークショップも新たな団体を加えフォーラムに帰ってきました。午後からはお城ホールで、おなじみとなった実行委員会による電子かみしばい「結婚したら仕事どうする？」や、ファザーリング・ジャパン代表 安藤哲也さんの講演、トーク&トーク「いっしょに子育て」も行われ、参加者500人が、子育てを通して、津市や市民一人ひとりの男女共同参画のこれからを考えました。

トーク&トーク



【トーク】安藤哲也さん／田部眞樹子さん／武藤絵美さん／輪野美智子さん
【コーディネーター】内山智裕さん（三重大学准教授）



2歳の幼児を子育てし現在第2子妊娠中の武藤さん、働きながら4人の子育てをし仕事の間では男女共同参画に取り組む輪野さん、地域のNPOで子育て支援している田部さん、6週間の育児休暇を取り育児・家事と仕事を両立しているコーディネーターの内山さん、そして講演講師の安藤さんの5人で話が弾み

ました。現状では母親に育児が偏りすぎ母親自身も育児を抱え込んでしまっていること、母親にとってパートナーである父親の支えとともに地域の支えが大切であること、母親が社会復帰できるシステムなど制度改革と意識改革が必要であることなど、様々な意見が出されました。

電子かみしばい

今年のかみしばいは、「結婚したら仕事どうする？」のテーマで、実行委員会のメンバーにより披露されました。

今年のかみしばいの対象は、これまでとは違い20代の結婚や就職を考える世代です。「女性が正社員で一生働くと生涯賃金は約2億円、いったん辞めてパートで働いた場合は約5,000万円」という数字と、「結婚後のライフプランニングを、2人でよく話し合うことが大切」という言葉が心に残りました。



ワークショップ

午前中は、7つの団体がそれぞれの会場でワークショップを開催しました。各会場で、それぞれの団体が趣向をこらし、男女共同参画や子育てなどを提案し、参加の皆さんとともに語り合いました。



【参加団体と内容】（順不同）：新日本婦人の会津支部「すべての子どもにより良い保育を！」／ソフリエみえ「乳幼児と一緒にあそぼう」／ちょいワルおやじの会「子どもと遊ぼう」／三重の女性史研究会津「歴史を拓（ひら）いた津の女性たち」／世界平和女性連合三重第一連合会「今 親にできること」／津友の会「生活を見直そう」／津アイリス「地域にアナタの居場所がありますか？」

安藤哲也さん 講演

父親を楽しもう！ 《番外編》その1

めざせ！ 仕事と子育ての ハッピーバランス

わあむ津午後は電子かみしばいに続いて、NPO法人ファザーリング・ジャパン代表 安藤哲也さんの講演がありました。「家族と関わる時間は子育て期の投資、リターンはママや子どもの笑顔です」「仕事も育児も両方やった方が得。楽しむことが大事です」「ワーク・ライフ・バランスを超えたワーク・ライフ・シナジー(=仕事と生活の相乗効果)を」など、会場のイクメンパパにも語りかけながら楽しい講演となりました。



活動展示

3階の生活文化情報センター(展示室)・ギャラリーでは15団体と実行委員会、津市が展示を行いました。お目当ての展示以外にも、さまざまな団体のブースに足をのぼす来場者が多く見られました。団体間の交流や協力も活発だったようです。



【参加団体と内容】(順不同)：三重大学「三重大学における男女共同参画の推進」／無名針花(ナナシバナ)「わたらしさの表現」／三重の女性史研究会津「歴史を拓(ひら)いた津の女性たち」／津男女共同参画調査研究所 紅藍社「どう進める?!津市の男女共同参画」／津手づくり絵本の会「絆を大切に!豊かな心で楽しむ絵本づくり」／R.K.W.(リユース・キッズ・ウェア)「Reuseしましょう!子ども服」／津友の会「生活を見直そう」／グループ津津うらうら「津津うらうらに男女共同参画を」／南が丘ふれあい元気広場「いつまでもいきいきと」／新日本婦人の会津支部「一子育て・くらし・平和一女性の願い実現めざして」／みえウィメンズ・プラン「確かめよう!ジェンダーチェックリストであなただの毎日を」／三重県男女共同参画センター フレンテみえ「パネルで見る男女共同参画」／三重行政相談委員協議会「あなたの一言で国の制度や仕組みが変わる～総務省の行政相談～」／三重県男女共同参画・NPO室「女性の社会参画を応援します!みえチャレンジプラザ」／三重労働局雇用均等室「パパも育児休業をとってイクメンになろう!」

父親を楽しもう！ 《番外編》その2



ファザーリング・ジャパンの
小崎さんと代表の安藤さん



2012年2月17日(金)～19日(日)に滋賀県大津市で開催された「ファザーリング全国フォーラムinしが」に参加しました。

昨今のイクメンムーブメントを背景に、父親支援の取組が一層進むように、全国から自治体の担当職員やNPO、企業、学校等の関係者約5,300人が集い、父親支援の現状や方法について学んだり、次なるアクションのヒントを得たり、さらには連携のためのネットワークづくりをしました。

安藤代表の「妻には妻の人生がある。妻の人生は僕のものではない。一緒にいることで、更には楽しくなるというのを目指している、だから応援している。イクメンは家事を手伝うことが目的ではない、妻の人生を応援するのが目的。家事の手伝いはその手段」の言葉が印象的でした。

男世共同参画講演会

父親を楽しもう！ 《番外編》その3

2011年11月13日に、白山総合文化センターしらさぎホールにおいて「新しい家族のあり方～パートナーシップと子育て～」と題して、作家の鈴木光司さんに講演していただきました。

高校教師であった妻とともに、2人の子育てをしていた鈴木さん。

家事の失敗談・子どもとともに買い物をしているときのお店の反応など、楽しいエピソードを交え、どのようにすれば時間を有効に使いながら、楽しい子育てができるかを講演されました。



～20年後は今よりずっと自然な 男女共同参画社会に～

2011年11月津市男女共同参画フォーラム(わあむ津)実行委員会委員と同学学生の皆さんで、ワークショップが開催されました(下欄参照)。

その時参加した学生の皆さんが、男女共同参画について、どう思いどう行動しようとしているか、もっと詳しく聞いてみたいと、12月つばさの編集スタッフでもう一度お邪魔しました。(インタビューには佐藤肇子わあむ津実行委員会委員長、東福寺一郎三重短期大学学長にも同席していただきました。)



2011年12月26日 津市立三重短期大学にて
(左4人目より佐藤肇子委員長、東福寺一郎学長、
櫻井 詩歩さん、吉田 卓民さん、Kさん)

男女共同参画を学んで、新たに気づいたことはありますか？

櫻井： 前回のワークショップでお話を聞いて、働く場に管理職の女性が少ないと思いました。自分が働くようになった時にそれを諦めるのではなくて、自分から変えていけるよう行動していけたらと思いました。

吉田： 前回お話を聞いて、男女共同参画について、気づくところが多かったです。

K： 就職説明会で「総合職は男性に限らないので女性もどんどん受けてください」と言われました。前回のお話を聞いて、女性の先輩の皆さんが頑張ってくれたおかげかなと思いました。

わあむ津実行委員会と三重短期大学生の「世代を超えたワークショップ」

自分の人生、何色にする？

…仕事・結婚・子育て…

～自分を楽しむための方法 考えます～



2011年11月19日津市立三重短期大学大学祭の中で、わあむ津実行委員会と三重短期大学生の皆さんで、世代を超えたワークショップ「自分の人生、何色にする？…仕事・結婚・子育て…～自分を楽しむための方法考えます～」が開催されました。"日本女性会議2000津"の頃から津市の男女共同参画の一翼を担ってきた東福寺学長の基調講演「男女共同参画～一人ひとりが豊かな人生を過ごすために～」、実行委員会による電子紙芝居「結婚したら仕事どうする？」に引き続き、パネルディスカッションが行われました。様々な立場・年代の社会人と、三重短期大学生(今回インタビューの3名)の間で、世代を超えて男女共同参画について様々な体験や意見が交換されました。

家庭生活の中で、家事を分担することについてどう思いますか？

K：私の家では両親が共働きですが、家事は母親がほとんどを担っています。共働きだったら分担してすればいいのと思うこともあります。私は結婚しても仕事がしたいので、家事・育児を分担してくれる相手を望みます。

櫻井：私の家も共働きです。母は自営業で帰りも遅いので、時間に一番余裕のある私が、主に家事をしています。私が結婚したら、子どもに家事を覚えさせて、早くから分担させたいと思っています。

吉田：実家では母が専業主婦なので母が家事をしてくれていますが、今は下宿なので自分でしています。家事は苦ではありませんが、パートナーは専業主婦が希望です。けれども家事は任せっ切りではなく、頼ってもらいたいと思っています。



吉田 卓民 さん

女性が結婚・出産しても仕事を続けることについてどう思いますか？



K さん

櫻井：現状では難しい部分もあると思いますが、支えてくれるパートナーがそばにいたら、何とか頑張れると思います。

吉田：今の現実では厳しいと思います。

K：正規社員でも現実は大変そうに思えます。パートナーと協力しても、続けられるか不安です。やはり育児休業などの制度も大切だと思います。就職活動の時も、そういった制度は確認しました。

20年後の社会やあなたの生活を、男女共同参画の視点で想像してみてください。

櫻井：今ある性別役割分担に基づいた常識が外れてきて、今よりずっと自然な男女共同参画社会になっていると思います。私はパートナーと子どもが2人、家族で協力して家事をしていると思います。

吉田：世の中については櫻井さんに同感します。また自分の暮らしについては、パートナーには働いてもらってもいいと思います。協力しあい話し合える家庭が理想です。

K：世の中がどんどん変わって、取り立てて「男女共同参画」と言わなくてもそうした社会になっていると思います。周囲のいろいろな人やしくみに支えられて、仕事や子育てをしていると思います。



櫻井 詩歩 さん

取材記者メモ

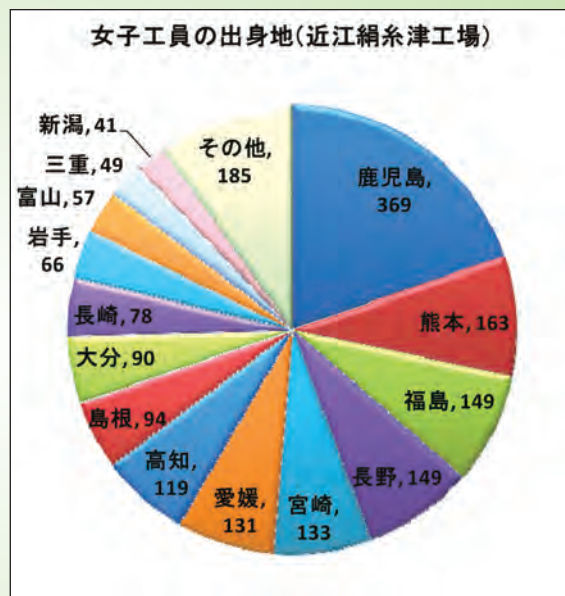
途中で「マネージャーは女子or男子?」「ネガティブ世代と言われてどう思う?」など思いがけない話題も飛び出し、楽しいひとときとなりました。一方、インタビューでなくディスカッション形式にすればもっと盛り上がったのではと、担当者として反省しました。皆さんご協力ありがとうございました。

働く者の人権を 勝ち取った

近江絹糸女子工員

津駅から伊勢鉄道に乗ると、間もなく右手に広大な宅地が見えます。新しい住宅もだいぶ建ってきたようです。この土地にかつて、「近江絹糸津工場」という大きな紡績工場があったことを知る人も少なくなってきました。「オーミケンシ」という大きな看板と、張りめぐらされた高い塀といえば、ああそういえばと思い出す人もいるかもしれません。今日、リーマンショックやグローバル経済の中、日本の雇用、特に女性の雇用がますます不安定になってきています。現代日本の働く人々の多くは、雇用環境の悪化や突然の解雇などに対して、闘うすべを失っているのではないのでしょうか。今から半世紀以上も前、この津市で、働く人々の人権を勝ち取った多くの若い女性たちがいたことを、ぜひ知ってほしいと思います。

1950年代、日本の工業は繊維産業中心の時代。三重県にも日紡宮川工場、日清紡松阪工場、倉紡津工場、呉羽紡鈴鹿工場、東洋紡富田工場、他にも多くの大工場、また周辺には中小の繊維工場がひしめいていました。各工場には中学を卒業した結婚前の女子が多数働いていました。県内出身者も一部いましたが、多くは九州・四国・東北・新潟・長野など地方の農村から集められてきた女子でした(右図)。農家にしてみれば結婚前の短期間食い扶持が減り、農業以外のわずかでも貴重な収入源として、会社からすれば、世帯主並みの給料を払わずに済む、昇給をそれほどしないうちに退職してくれる、また景気による雇用調整ができるありがたい存在だったのです。



【青年法律家協会編『人権争議』(1955年) 20頁より作成】

工場対抗競技の成績点数を書き出せば人間だれしも負けたくないと思うのがあたり前だ。そこにつけこみ朝は三時頃から夜は十一時頃まで働かして来たのだ。残業手当の請求をすれば「お前達が勝手に働いているのではないか」とけんもほろろの言葉をあびせられ結局何十時間と只働きをしてきたのだ。

(『解放の歌よ高らかに』より)

1952(昭和27)年新設された近江絹糸津工場にも、そうした女子が数多く集められました。ある少女は働きながら学ぶことを、またある少女は寮でピアノを練習することを夢見ての集団就職だったといいます。しかし現実には鉄条網付きの塀の中での工場・寮生活。寮では舎監の女性が徹底的に管理し、掃除の強制、外出の制限、信書の開封などが行われました。特に仏教の強制が行われ、これが会社に従順な従業員の育成に利用されることになります。工場では「工場対抗生産競技」が行われ、違法な深夜業、無給の時間外労働をするように仕向けられました。

その頃になつて一人二人と塀を飛び越える者も出て来たのだ。私も「思い切つて」と思った時は何度もあつたが、舎監の顔を思い浮かべると、どうしても決行出来なかつた。私達の要求は、何も無理なものではなく、あたりまえの事を要求したのだ、と思う。このあたりまえの事が現在の社会で許されていなかった事はほんとうに、なさけなく思う。……やつとのもので思ひきつて私が脱出したのはそれから間もなくだった。

（『解放の歌よ高らかに』より）

このような人権無視の会社のやり方に、1954年ついに労働争議が起こります。塀の外からの女子応援隊の合唱に応じて、乱闘や投石も起こる中、着の身着のまま一人また一人と、ある者は塀の穴をかいぐり、ある者は鉄条網の塀を飛び降りて脱出しました。

こうして要求は認められ、宗教の強制や舎監制度は改善、高等女学院への通学も可能になったのです。



【近江絹糸人権争議デモ行進の様子】

第1回
津友の会

第2回津市食生活
改善推進協議会

第3回 津アイリス

つながる津市の男女共同参画

あむあむ ネットワーク

このコーナーでは、毎回、津市を中心に活動中の男女共同参画に取り組む団体を紹介しています。今回は「津アイリス」です。



津リージョンプラザ喫茶コーナー

津アイリス発足から23年になります。「津アイリスって、いろんなことをしているみたいけど何を目指しているの」と聞かれた時には「あらゆる分野に男女が共に居場所と出番があるまちづくりを目指して草の根活動をしています」と答えます。毎月の定例会と海岸清掃は23年目、津リージョンプラザ喫茶コーナー運営は18年目になります。男女共同参画社会を実現させるため市民、市民団体、自治会、NPO、商工農林団体、学校、行政等皆さんと連携しながら活動をしてきました。

1972年国連総会において、性差別撤廃に世界的規模の行動で取り組むための計画の1つとして、国連は1975年を国際婦人（女性）年とすることを宣言しました。

その動きを受けて、国は1977年「国内行動計画」を策定。三重県は1979年「県内行動計画」を策定しました。女性たちは県が取り組んだ施策の1つ「婦人問題アドバイザー養成講座」に飛びつくように応募し、男性も女性も性別に関わりなく誰もが個性と能力を発揮して自分らしく生きていく多様性社会の重要さを学びました。私たちは学習を行動に移すため1989年津アイリスを発足させました。



海岸を清掃後、お花で華やかに

1995年津市は男女共同参画都市宣言しました。2000年津市と市民実行委員会の協働で全国規模の会議「日本女性会議2000津」を開催し、全国から約4,000人の参加を得て成功をおさめました。機運から実現に向けて……一人ひとりの違いが尊重され安心して暮らせる男女共同参画のまちづくりにご一緒に取り組んでいきましょう。

津市ヘルスメイトおすすめ簡単レシピ紹介



いろいろな形を楽しく手作りクッキー



おとうふクッキー

材 料 (約20個分)

★バター 50g
★砂糖 40g
★とうふ 40g
★小麦粉 100g
★ベーキングパウダー 小さじ1/2

下 準 備

ア バターは室温に戻し
ておく。
イ 小麦粉とベーキング
パウダーを合わせてふ
るう。
ウ オーブンを160度に
温める。

作 り 方

- ① 下準備アのバターをクリーム状にし、砂糖を加えてすり混ぜる。
- ② つぶしたとうふを加えて混ぜる。
- ③ 下準備イのふるった粉類を加え、さっくりと混ぜる。
- ④ 星型の口金を付けて、絞り袋で絞り出す。
(冷蔵庫で冷やし、型で抜いてもよい。)
- ⑤ 下準備ウの160度のオーブンで、約15分焼く。



ごまとひじきのクッキー

材 料 (約20個分)

★バター 50g
★砂糖 40g
★卵 1個
★牛乳 大さじ1
★小麦粉 100g
★ベーキングパウダー 小さじ1/4
★ごま 10g
★ひじき(缶詰) 20g

下 準 備

ア バターは室温に戻し
ておく。
イ ひじきはさっと洗っ
て水を切る。
ウ 小麦粉とベーキング
パウダーを合わせてふ
るう。
エ オーブンを180度に
温める。

作 り 方

- ① 下準備アのバターをクリーム状にし、砂糖を加えてすり混ぜる。
- ② 溶き卵と牛乳を数回に分けて加えて混ぜる。
- ③ 下準備イのひじきとごまを加える。
- ④ 下準備ウのふるった粉類を加え、さっくりと混ぜる。
- ⑤ 丸型の口金を付けて、絞り袋で絞り出す。
(冷蔵庫で冷やし、型で抜いてもよい。)
- ⑥ 下準備エの180度のオーブンで、約10分～約15分焼く。

表紙の答え

2010年度の日本男性の育児休業取得率は

- ①の1.38%です。
- ②の1.72%は、2009年度調査時の取得率
- ③の13%は、2020年の目標値です。

編集後記

「社長が夢」一市内のある中学校の女生徒が、書写で書いていました。私たちの取り組みは、着実に未来を作っているのだと確信しました。(佐藤)

今回、三重短期大学の学生さんに、男女共同参画についてインタビューをさせていただきました。緊張の中で「心の中」にある気持ちをしっかりと話していただきました。是非読んでいただきたいと思います。これからも皆さんに少しでも男女共同参画に興味を持っていただけるようなつばさ編集に微力ながら取り組んでいきたいと思っています。(小林)

三重短期大学でのワークショップでは活発な意見交換の中で、学生たちが地に足をつけ将来をきちんと見据えていることに感心し、自分が同年代のときのいい加減さに赤面しました。

これから直面するであろう沢山の壁に、きっと真摯に向き合い自分なりの方法で解決の糸口を見つけていってくれることと期待しています。(高橋)

※ つばさ第11号6ページ「あむあむネットワーク」の記事中にある「香良州」は「香良洲」の誤りです。おわびして訂正させていただきます。

編集・発行／津市市民部男女共同参画室

〒514-8611 津市西丸之内 23 番 1 号 TEL229-3103 FAX229-3366 E-mail: 229-3103@city.tsu.lg.jp

編 集／津市男女共同参画情報紙「つばさ」編集スタッフ：小林小代子・佐藤ゆかり・高橋礼子